

主要事業個別シート(第2次実施計画/H27・28年度)

ver.1.01

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	建設部(上下水道局)
	28003	水道生活基盤状況調査事業	室名	上水道室
	基本施策の大綱	01:快適な都市空間の創造	会計	11:水道公営企業会計
	基本施策	07:上下水道の整備	款	資1:資本的支出
	施策の方向	01:安全でおいしい水の安定供給	科目	01:建設改良費
戦略プロジェクト	-	目	01:施設費	
事業予定期間	H 28 ~ H 28 年度		主な根拠法令要綱等	水道法

② 目的・概要	対象	川崎町、住山町地区住民
	目的	主に加圧地区である川崎町、住山町地区への新規転入者等の宅地造成が今後増加することが予想され、使用水量の増加により水圧低下が見込まれるため、水圧を備えた水道施設の整備を行うことで定住化を図り、低廉で安全、快適な住宅の確保を行う。
概要	亀山市給水区域について、現況管網モデルを構築しシミュレーションすることにより、水圧、水量不足といった問題点に対し改善計画を立案する。また、配水管については、年々老朽化が進んでおり、更新事業の効率化・平準化を図るため、業務指標(管路の経年化率、耐震化率)の観点から、事業の定量的な把握や目標設定を行う。	

		平成27年度	平成28年度			
③ 事業の計画	年度別事業計画	水道管網計算及び更新計画作成業務 一式				
		事業費	20,000千円			
		国庫支出金				
		県支出金				
		地方債				
		その他				
		一般財源	0千円	20,000千円		
		事業費		17,371千円		
		国庫支出金				
		県支出金				
地方債						
その他						
一般財源	0千円	17,371千円				
期間内総事業費(H27・H28)①		20,000千円	期間外事業費(H29以降)②	0千円	総事業費 (①+②)	20,000千円

				平成27年度	平成28年度	(参考・平成29年度)	
④ 指標	①	名称	水道管網計算	活動	計画値		
		補足	水道管現況流量の把握		単位		100
	②	名称			計画値		
		補足			単位		%
	③	名称			計画値		
		補足			単位		
	④	名称			計画値		
		補足			単位		

事務事業評価シート

H28(主要事業)

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	建設部(上下水道局)
	28003	水道生活基盤状況調査事業	室名	上水道室
	基本施策の大綱	01:快適な都市空間の創造	財 会計	11:水道公営企業会計
	基本施策	07:上下水道の整備	務 款	資1:資本的支出
② 実施体系	施策の方向	01:安全でおいしい水の安定供給	科 項	01:建設改良費
	戦略プロジェクト	-	目 目	01:施設費

② 目的・概要	対象	川崎町、住山町地区住民
	目的	主に加圧地区である川崎町、住山町地区への新規転入者等の宅地造成が今後増加することが予想され、使用水量の増加により水圧低下が見込まれるため、水圧を備えた水道施設の整備を行うことで定住化を図り、低廉で安全、快適な住宅の確保を行う。
	概要	亀山市給水区域について、現況管網モデルを構築しシミュレーションすることにより、水圧、水量不足といった問題点に対し改善計画を立案する。また、配水管については、年々老朽化が進んでおり、更新事業の効率化・平準化を図るため、業務指標(管路の経年化率、耐震化率)の観点から、事業の定量的な把握や目標設定を行う。

		27年度	28年度
①	名称	水道管網計算	計画値
	補足	水道管現況流量の把握	実績値
			単位
②	名称		計画値
	補足		実績値
			単位
③	名称		計画値
	補足		実績値
			単位
④	名称		計画値
	補足		実績値
			単位

年度計画				年度実績				
水道管網計算及び更新計画作成業務 一式				亀山市内水道管網計算及び管路耐震化計画策定業務委託				
④ 事業の計画・実績	事業費	事業費	計画額	予算額	決算額	総人件費 ①	1,465	平均給与額×③
		国庫支出金		0	0	一般職員人件費 ②	1,465	
		県支出金		0	0	所要人員 ③	0.20	
		地方債		0	0	臨時職員人件費 ④	0	
		その他		0	0	受益者負担額 ⑤	0	
		一般財源	20,000	17,371	17,280	受益者負担率	0.0%	⑤ / ⑥
		再掲	翌年度への繰越額		0			
			前年度からの繰越額		0			
			総人件費		①	1,465		
			総コスト		⑥	18,745		

⑤ 事業の評価	【事業の成果】	本業務により亀山市の水道事業が抱える諸課題(水量・水圧低下地区)に対する対策が明確となった。また、市内全ての水道管から重要管路を抽出し、大規模地震時に備え管路耐震化の基礎調査を実施した。	総合判定
			A
			順調に進んだ
	【反省点・課題】	計画に基づいて整備するには多額の予算を必要とするため、限られた予算で優先すべき事業を的確に選定することが必要となる。	
	【改善の方向性】	管路の老朽化対策を含めた合理的な整備を進めると同時に予算の確保に努めていく。	
事業目的の妥当性: 適切		有効性: 適切	最終評価確認者: 上水道室長 鳥喰 教義